

OASIS DITA Adoption 技術委員会出版物

DITA1.2 特集記事: DITA 導入における役割と担当責任

Author: Deb Bissantz、Jacquie Samuels 共著
DITA Adoption 技術委員会代表

Date: 2013 年 9 月 4 日

This is a Non-Standards Track Work Product and is not subject to the patent provisions of the OASIS IPR Policy.



OASIS (Organization for the Advancement of Structured Information Standards) is a not-for-profit, international consortium that drives the development, convergence, and adoption of e-business standards. Members themselves set the OASIS technical agenda, using a lightweight, open process expressly designed to promote industry consensus and unite disparate efforts. The consortium produces open standards for Web services, security, e-business, and standardization efforts in the public sector and for application-specific markets. OASIS was founded in 1993. More information can be found on the OASIS website at <http://www.oasis-open.org>.

The OASIS DITA Adoption Technical Committee members collaborate to provide expertise and resources to educate the marketplace on the value of the DITA OASIS standard. By raising awareness of the benefits offered by DITA, the DITA Adoption Technical Committee expects the demand for, and availability of, DITA conforming products and services to increase, resulting in a greater choice of tools and platforms and an expanded DITA community of users, suppliers, and consultants.

DISCLAIMER: All examples presented in this article were produced using one or more tools chosen at the author's discretion and in no way reflect endorsement of the tools by the OASIS DITA Adoption Technical Committee.

This white paper was produced and approved by the OASIS DITA Adoption Technical Committee as a Committee Draft. It has not been reviewed and/or approved by the OASIS membership at-large.

Copyright © 2013-2015 OASIS. All rights reserved.

All capitalized terms in the following text have the meanings assigned to them in the OASIS Intellectual Property Rights Policy (the "OASIS IPR Policy"). The full Policy may be found at the OASIS website. This document and translations of it may be copied and furnished to others, and derivative works that comment on or otherwise explain it or assist in its implementation may be prepared, copied, published, and distributed, in whole or in part, without restriction of any kind, provided that the above copyright notice and this section are included on all such copies and derivative works. However, this document itself may not be modified in any way, including by removing the copyright notice or references to OASIS, except as needed for the purpose of developing any document or deliverable produced by an OASIS Technical Committee (in which case the rules applicable to copyrights, as set forth in the OASIS IPR Policy, must be followed) or as required to translate it into languages other than English. The limited permissions granted above are perpetual and will not be revoked by OASIS or its successors or assigns. This document and the information contained herein is provided on an "AS IS" basis and OASIS DISCLAIMS ALL WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY WARRANTY THAT THE USE OF THE INFORMATION HEREIN WILL NOT INFRINGE ANY OWNERSHIP RIGHTS OR ANY IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

Document History

Revision	Date	Author	Summary
0.5	July 22, 2013	Deb Bissantz and Jacquie Samuels	First draft reviewed by OASIS members.
0.6	August 22, 2013	Deb Bissantz and Jacquie Samuels	Second draft reviewed by OASIS members.
1.0	September 4, 2013	Deb Bissantz and Jacquie Samuels	Approved by the OASIS DITA Adoption Technical Committee.

Japanese Translation History

Revision	Date	Translators · Reviewers	Summary
0.9 Japanese Edition	December 11, 2014	SDL ジャパン 青木淳平 (翻訳) PTC ジャパン 広瀬元宣 (翻訳) インフォパース 関根哲也 (翻訳/校正/組版) ほか 1 名	Volunteered by JDIG (Japan DITA Interest Group) with regular meetups hosting support organizations. OASIS 寄贈前最終リリース版
1.0 Japanese Edition	January 31, 2015	Jumpei Aoki, SDL Japan (Translation) Motonobu Hirose, PTC Japan (Translation) Tetsuya Sekine, InfoParse (Translation/Editing/Publishing) 1 anonymous volunteer from Japan DITA Interest Group	A final PDF generated by an OASIS White Paper Stylesheet.

目次

概説.....	5
協業による体制強化.....	7
役割、担当責任、スキルセット.....	8
DITA 導入における役割、担当責任、スキルセット.....	10
調査フェーズ.....	15
売り込みフェーズ.....	16
プロトタイプフェーズ.....	17
導入フェーズ.....	19
継続的改善フェーズ.....	21

概説

■ 要となる役割に最適な人員を投入することは、DITA 導入の成功を確実にします。

DITA (Darwin Information Typing Architecture) の導入は単なるツール類の変更ではありません。DITA を実装することによってドキュメンテーションの品質を向上させることができ、オーサリング、レビュー、パブリッシング、および翻訳プロセスを合理化し、新しいアウトプットの在り方やユーザーエクスペリエンスをパブリッシュされたコンテンツに持ち込めます。

DITA のライティング環境を導入するには、要となる幾つかの役割が必要となります。これらの役割の人たちは、導入計画を立案し、導入のため資金の承認を獲得し、自組織にとっての要件を満たす一連の戦略、プロセス、ツール類を実装します。効力のある DITA 導入は、直接的、实际的に、自社のプロダクトとエンドユーザーエクスペリエンスにインパクトを与えることができます。効力のある DITA ライティング環境は、コンテンツのオーサリング、レビュー、パブリッシング、および翻訳を、より迅速、容易にします。

不適切に実施されたり、妥当なスキルセットの人員が得られない場合、DITA 導入プロジェクトは、当所望んだ結果が伴わない、費用だけ掛かるプロジェクトになってしまう場合もあり得ます。

実装が十分練られていない DITA 導入や適切なスキルセットなしでの DITA ライティング環境の実装は、費用だけ掛かるプロジェクトに成りがちです。スキルセットのある人員なしでは、練られた導入計画があり、実装が成功であっても、期待している結果を見ることができないかもしれません。

DITA 導入プロセス

成功する DITA 導入は以下のフェーズを含んでいます。

1. 調査： DITA の導入がコンテンツ、ユーザー、会社にとってはどう役に立つのかを学習。
2. 売り込み： プロトタイプや PoC をおこなうことをリクエストし、承認を取得。
3. プロトタイプ： プロトタイプをコンテンツの一部に対して実施。
4. 導入： より多くのコンテンツを使いプロセスを実施。
5. 継続的改善： 継続的に調整と改善を実施。

成功する DITA 導入は以下のフェーズを含んでいます。

調査
売り込み
プロトタイプ
導入
継続的改善

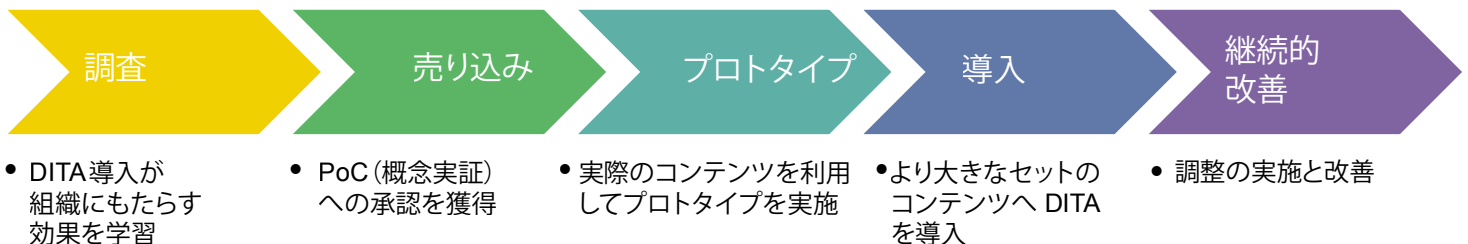


図 1: DITA 導入プロセスにおけるフェーズ

全てのタスク、役割、担当責任は、特定の導入プロセスに依存することなく、一般的な注視点として捉えられるべきです。例としては、初期のフェーズにおいてコンテンツ戦略を割愛することは、直接的にプロセスやツ

ール類の効果に強い影響を与えることになります。後々、どの時点かで、コンテンツ戦略を実施することになりますが、効果は低減されてしまいます。

フェーズが重なったり、異なる順番で起こったりすることも想定されます。フェーズの順番が異なってしまうのは主に以下の理由からです。

- ・ マネージメントが導入の立役者で、承認を最初に得ている場合。
- ・ プロトタイプフェーズを実施しないことを決断し、導入に即、至る場合。
- ・ それぞれのフェーズごとに承認が必要な場合。

リリース日程や顧客からの要望などの外部からの圧力に押されて、導入をサブフェーズに分割しなければならない場合もあり得ます。

実務経験

成功している多くの DITA 導入事例では、DITA 経験を持つ人材と従来からの社内の人材をうまくチーム化しています。

それぞれの役割において実務経験がある外部のサービスやコンサルタントに業務を依頼することは、DITA プロジェクトの成功にとって非常に重要です。経験のある人材は、落とし穴を避けたり、戦略の効率を高めることを上手に支援できます。DITA の実務経験を持っている人員は、チーム内の DITA エキスパートではない人たちに DITA の導入によってもたらせられるポテンシャルを上手に伝えることができます。何ができて何ができないかを知ること、最善の方法でのソリューション実装を知っていることは、成功と失敗を大きく左右する要因です。

以下の役割を担う人員は、DITA の実務経験をもっているべきです。

- ・ DITA インフォメーションアーキテクト／コンテンツストラテジスト
- ・ テクノロジスト/パブリッシングエキスパート
- ・ 変換スペシャリスト
- ・ トレーナー
- ・ テクニカルエディター
- ・ コンテンツ管理スペシャリスト

ほかの多くの役割の人員には、DITA の実務経験は在った方が良いですが、必須ではありません。

いくつかの役割に関しては、OJT（オンザジョブトレーニング）で学ぶことが最善策です。これらの、執筆者、プロジェクトマネージャー、マネージャーの役割の人員は、プロダクト、会社、ブランディング、そしてエンドユーザーを理解しています。彼らがプロジェクトへもたらすナレッジや経験は、要求事項を特定し、最終結果へのビジョンを創出し、最適なソリューションを構築し、最良のエンドユーザー満足度をもたらすと同時にコスト削減するという、一般的な DITA 導入の展開に必須となります。

協業による体制強化

■ 主要な役割が密に協業すると、DITA の導入に最良の結果をもたらします。

この特集記事では、各フェーズごとにそれぞれ関連する役割について説明します。ただし、これらの役割の責任を負う個人それぞれは、連携して組織全体に向けたコンテンツを展開する必要があります。

DITA の導入プロジェクトは、ただ単にコンテンツを XML タグで囲むだけの作業ではありません。導入プロジェクトでは、静的な既存コンテンツを動的な知識体系に変換します。変換したコンテンツは、より簡単に利用でき、見つけることができ、アクセスすることができます。またこの知識体系は、現在および将来的な要件を満たすように進化させることができます。アジャイルでフレキシブルな DITA によって、コンテンツライフサイクルのプロセスに最先端の技術が持つ可能性を持ち込むことができ、配布と消費の選択肢が広がります。このような変換を行うにあたり、可能性を見抜く力（ツールや技術に関する知識）が必要です。また、コンテンツの主題やエンドユーザーに対する深い理解度も必要になります。

連続して進行する作業セッションを通じてアイデア、課題、目標を伝える多くの役割をまとめあげることで、DITA 導入プロジェクトのビジョン、計画、実装は、広く拡張されます。各役割はプロジェクトに対して独自の視点や理解を持ち合わせていますが、プロジェクトを多角的に見ることで、DITA の導入プロジェクトを成功へと導く結束したソリューションが生み出されます。プロジェクトが成功すれば、DITA の導入を越え、投資収益率(ROI)の増加、コンテンツ品質の向上、高いユーザー満足度の獲得にも効果が広がります。

最高情報責任者(CIO)など、企業の主要なステークホルダーを協業プロセスの初めの段階から関与させておく、しかるべきときに、DITA の導入プロジェクトを企業内の別の部署や部門に拡大することができるようになります。

役割、担当責任、スキルセット

組織が DITA 執筆環境への移行調査を行う際には、新たな役割、担当責任、スキルセットについて、特定する必要があります。コンテンツ戦略を構築する際には、皆さんがリソース戦略も同時に考えることを推奨しています。DITA の実装を成功させる上で必要だと思われる複数の役割を特定しています。DITA の実装を進めていくうちに、役割の数やあり方が変わることもあります。調査フェーズに必要な役割は、構築完成された DITA 環境において必要な役割とは大幅に異なります。

リソース戦略を構築するには、以下のガイドラインを考慮に入れてください。

- ・ 一つの役割につき、一人以上の人員が担当責任を担います。
- ・ 一人の人員は、一つ以上の役割の担当責任を担います。
- ・ 個々の人員は、組織が実装のフェーズを進むにつれ、その役割を変えることがあります。
- ・ 各役割に対して担う担当責任も、組織が実装のフェーズを進むにつれ若干変わることがあります。
- ・ いくつかの担当責任に関してはその担い手をアウトソースする必要があるかもしれません。

表 [DITA における役割、担当責任、スキルセット](#) はそれぞれの役割ごとにまとめています。

表 1: DITA 実装のそれぞれのフェーズで必要だと思われる役割

DITA 実装の進行を通じてのそれぞれ異なるフェーズと、それぞれの実装フェーズで推奨される役割

役割	調査	マネージメントへの売り込み	プロトタイプ	導入	継続的改善
執筆者				✓	✓
コンテンツ管理スペシャリスト	✓		✓	✓	✓
変換スペシャリスト	✓		✓	✓	状況に応じて
DITA インフォメーションアーキテクト/コンテンツストラテジスト	✓	✓	✓	✓	✓
テクニカルコミュニケーションマネージャー	✓	✓	✓	✓	✓
執筆リーダー	✓		✓	✓	✓
プロジェクトマネージャー	✓		✓	✓	
テクノロジスト/パブリッシングエキスパート	✓		✓	✓	✓
支援者	✓	✓	✓		
執筆者としての SME (内容領域専門家)				✓	✓
レビューアーとしての SME (内容領域専門家)				✓	✓
テクニカルエディター			✓	✓	✓
トレーナー			✓	✓	✓

役割	調査	マネージメントへの売り込み	プロトタイプ	導入	継続的改善
翻訳コーディネーター	オプション		✓	✓	✓
ユーザーエクスペリエンス (UX) デザイナー	✓		✓	✓	✓

DITA 導入における役割、担当責任、スキルセット

以下の表は、DITA を採用する際の各フェーズに必要な主なタスクとそれらに対応する役割を記載しています。それぞれのフェーズにおいて、役割はそれぞれ担当責任があり、それらは各フェーズにて要不要が変動します。

役割	担当責任	スキルセット
DITA インフォメーションアーキテクト/コンテンツストラテジスト	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツライフサイクルの全フェーズに渡る現状の理解 ツールやプロセス、パブリッシング、翻訳、シングルソース戦略を含んだコンテンツ戦略の定義 自組織に適した DITA データモデルの定義 DITA 特殊化の定義と開発 DITA モデルに適合した制約の開発 (パブリッシングエキスパートと共同で) キーとなるリソースの特定を含んだプロジェクトの立案 ウェビナーやカンファレンスへの参加 コンテンツ品質、自動化、翻訳、シングルソースへの改善点を見つけ、必要に応じて新ツール、戦略、プロセスを適用 オーサリングテンプレートの開発と保守 オーサリング環境の管理 	<ul style="list-style-type: none"> DITA アーキテクチャーに精通 エンドユーザーに関する知識 コンテンツ全般に対しての幅広い知識 ビジネス要件やゴールに対しての知識 要件分析能力 最新の理論、ツール、ベストプラクティスに関して描ける能力 思慮深さと戦略的な計画立案能力 シングルソースとメタデータ活用の最善策決定能力 関連ツールについての知識 (CCMS、XML エディタ、パブリッシングの選択肢) DTD/XSD に対する専門知識
テクノロジスト/パブリッシングエキスパート	<ul style="list-style-type: none"> 必要となる全ての出力成果物へのパブリッシングパイプラインの構築とカスタマイズ DITA インフォメーションアーキテクト/コンテンツストラテジストと共同で DITA 制約モデルを開発 (必要な場合) DITA インフォメーションアーキテクト/コンテンツストラテジストと共同で DITA 特殊化データモデルを開発 (必要な場合) スタイルシートの開発と保守 	<ul style="list-style-type: none"> 出力メカニズムについて精通 DITA Open Toolkit を使用している場合、次のスキルセットを含む： <ul style="list-style-type: none"> XSLT-FO FOP、XEP、もしくは Antenna House 及びその他のパブリッシングエンジン XML、DTD/XSD、HTML、CSS、Java、XSL、XQuery そして Ant の知識 DITA アーキテクチャーに精通 XML エディタに精通 ソフトウェア開発能力 (プログラミング言語)
コンテンツ管理スペシャリスト	<ul style="list-style-type: none"> CCMS 要件の定義 分析と適切な CCMS の選択 構成、ワークフロー、ユーザー管理、自動化を含めた CCMS の管理 	<ul style="list-style-type: none"> DITA アーキテクチャーに精通 様々な CCMS に対しての知識 エラーのトラブルシューティング能力 初期と、継続するトレーニングを提供する能力 チームをサポートする能力

役割	担当責任	スキルセット
	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンテンツ管理のベストプラクティスの取り決めと順守 ・ コンテンツやコンテンツ管理について、再利用や最新情報が未反映なものなど、各種情報を含むレポートを作成 ・ トレーナーを CCMS の利用法についてトレーニング ・ 他ツールとのインテグレーションの管理 ・ CCMS のインストールとアップグレード 	
テクニカルコミュニケーションマネージャー	<ul style="list-style-type: none"> ・ DITA 導入プロセスに関わるスタッフの管理 ・ DITA 導入プロセスにおける要となるスタッフを、テクニカルコミュニケーション部門の内外部で調達 ・ DITA 導入プロセスにおける以下の経費の管理 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人的リソースの給与コスト ・ トレーニング費用 ・ ツールのライセンス費 ・ スタッフ全員が必要なトレーニングを受けていることを確認 ・ スタッフ全員が必要なツールにアクセスできることを確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リソース計画とその調達 ・ 調達可能な資金に対する知識 ・ 経費の管理とトラッキング能力 ・ コストの分析と予測能力
執筆リーダー	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトやドキュメントに対し、コンテンツのデリバリー、再利用、そして翻訳の要件の計画及び管理 ・ 上位レベルのマップの管理 ・ 再利用戦略の実施 ・ DITA インフォメーションアーキテクト／コンテンツストラテジストと共に新たな再利用の可能性と現行モデルに対しての新しい要件を特定 ・ 執筆者間のナレッジギャップの特定（例：ツールへのトレーニング等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ エンドユーザーについての深い理解 ・ DITA と DITA ベストプラクティスの理解 ・ XML エディターの利用経験 ・ 新しいツールとプロセスを学ぶ能力 ・ トピックベースオーサリングのライティングスタイルに適合できる能力 ・ 複雑なコンテンツ要件に対して、考え、管理し、計画を立て、コンテンツ作成プロセスを合理化し、必要なコンテンツを届けるための各種戦略を立てる能力
執筆者	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンテンツの執筆 ・ CCMS の利用 ・ サブマップの作成と管理 ・ 確立された DITA モデルに従う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ DITA と DITA ベストプラクティスの理解 ・ XML エディターの利用経験 ・ 新しいツールとプロセスを学ぶ能力

役割	担当責任	スキルセット
	<ul style="list-style-type: none"> 組織のスタンダードに沿ったコンテンツの執筆 	<ul style="list-style-type: none"> トピックベースオーサリングのライティングスタイルに適合できる能力
執筆者としての SME (内容領域専門家)	<ul style="list-style-type: none"> トピックの執筆 組織のスタンダードに沿って執筆 	<ul style="list-style-type: none"> 単体で意味が通るトピックを執筆する能力
レビューアーとしての SME (内容領域専門家)	<ul style="list-style-type: none"> ブック文脈内外でのコンテンツのレビュー (トピックやマップ) 	<ul style="list-style-type: none"> DITA 環境に特化したものではない
テクニカルエディター	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツと構造においての一貫性の保証 シングルソース機会の特定 エンドユーザーの要件に合致しているかの保証 執筆者がよりトレーニングが必要な箇所やアドバイスが必要な箇所の特定 DITA インフォメーションアーキテクト/コンテンツストラテジスト 執筆スタイルガイドや DITA マークアップガイドの作成と保守 	<ul style="list-style-type: none"> DITA ベストプラクティスの理解 シングルソーシングの理解 DITA 再利用メカニズムの理解 DITA 要素と属性の熟知 ミニマリズムとトピックベースライティングの熟知
ユーザーエクスペリエンス (UX) デザイナー	<ul style="list-style-type: none"> エンドユーザーがどのようにコンテンツにアクセスし、体験するかについての調査 ナビゲーション、カスタムコンテンツ、検索を含め、ユーザーがどのように出力したコンテンツを体験するかを定義、デザイン、実装 コンテンツ管理スペシャリストと共にコンテンツを CCMS からパブリッシングの場所へデプロイ 多数の部署 (IT、Web チーム、開発、マーケティング、等) と共にコンテンツのユーザーエクスペリエンスが企業内の他のコンテンツ、製品とシームレスになるよう調整 コンテンツ管理スペシャリストやテクノロジスト/パブリッシングエキスパートと共にユーザーエクスペリエンスに対しての要件の定義と実装 (プロファイリングや検索用メタデータの活用など) 	<ul style="list-style-type: none"> 各ユーザータイプに対する専門性 多様なツールを用いたユーザーフィードバック収集に対するの習熟 ユーザー分析やユーザーリサーチに関する経験 HTML と CSS の知識 サーチエンジンカスタマイゼーションを精通 サーチエンジン最適化 (SEO) のベストプラクティスの経験 公開情報アクセスに対しての、アクセシビリティや法的要件への専門性 DITA アーキテクチャーに精通 DITA ベストプラクティス、リンク戦略、シングルソースに関する知識

役割	担当責任	スキルセット
	<ul style="list-style-type: none"> ダイナミック及び定期的なコンテンツのアップデート管理 ユーザーエクスペリエンスの管理とアップグレード、改善の実装 ユーザー、ユーザーの行動、ユーザーフィードバック、検索語句、更新されていないコンテンツ、等の情報を収集 ユーザーコミュニティの計画、設置、管理 	
翻訳コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> 社内翻訳者もしくは翻訳サービスプロバイダを利用した、継続的な翻訳管理の計画、実施 翻訳結果の監督 見積もり収集、コストのモニタリング、コストの最適化を含むコスト管理 翻訳ワークフローメカニズムの開発と保守 継続的に翻訳プロセスに対して調査と改善（ツールや戦略を含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ローカリゼーションベストプラクティスに対する専門性 XLIFF 標準の経験 DITA 環境における翻訳経験 CCMS の翻訳機能の知識 DITA のベストプラクティスと再利用の知識 翻訳ツールや業界動向の知識
変換スペシャリスト	<ul style="list-style-type: none"> レガシー資料の監査を実施 コンテンツの棚卸を実施し、コンテンツ変換の優先付けを行う（何を、いつ変換するか） 変換のためのコンテンツ準備 アーキテクトとリード執筆者から情報を得て、レガシーコンテンツの構造を新規に DITA 構造にあてはめる レガシーコンテンツを変換前に再編集（もしくは再編集の指示） 矛盾点を特定する コンテンツ管理スペシャリストと共に、変換の要件を定義 レガシーコンテンツを DITA XML に変換もしくは変換プロセスの選択 変換されたコンテンツに対して品質保証を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 変換テーブルもしくは類似ツールに対しての熟知 次に対して熟知： <ul style="list-style-type: none"> XML XQuery スクリプト言語（ExtendScript 及び類似スクリプト） DITA アーキテクチャと DITA ベストプラクティスの熟知 コンテンツ戦略の知識 コンテンツとユーザーに関する広い理解
トレーナー	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツ管理スペシャリストやチーム内のキーメンバーから情報を得て、カリキュラム、デリバリー方法、デリバリ 	<ul style="list-style-type: none"> DITA、XML エディター、CCMS に対しての専門性 研修及びオンライントレーニングの作成と提供に対する熟知

役割	担当責任	スキルセット
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一の頻度を含めた、トレーニングに関する要件を定義 ・ トレーニングを受ける人のための実際の例を含めたトレーニングコンテンツの作成 ・ 執筆者、レビューアー、翻訳者、そして他ステークホルダーに対し次のトレーニングを実施: <ul style="list-style-type: none"> ・ DITA の基礎 ・ DITA ベストプラクティス ・ プロセス ・ XML エディター、CCMS、そしてパブリッシングツールを含むツール ・ オンデマンドベースのトレーニングの提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ DITA アーキテクチャー、DITA ベストプラクティス、ツール、そして関連プロセスの熟知 ・ 特定の学習者に対してトレーニングコンテンツの調整ができる能力 ・ 学習者に対してハンズオン演習を提供しリードする能力
支援者	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトのビジョン構築 ・ プロジェクトが企業基準に準拠し、予算獲得ができるよう調整 ・ DITA のメリットを企業を通じた他の役員やステークホルダーに説明 ・ エンタープライズ DITA ソリューションの実装における可能性の紹介と説明 ・ 様々な部署、部門に対して DITA のビジネスバリューに沿ったメリットを説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・ エグゼクティブコミュニケーションスキル（複数利害の調整と合意形成能力） ・ コンテンツライフサイクルを合理化することの利点が解っていること ・ ビジョンを持ち、DITA ソリューションを企業内に広げていくことのビジネスバリューを理解することができる ・ コンテンツ戦略をビジネス戦略に繋げることができる ・ 現状のコンテンツ制作、出力、管理プロセスに対して理解している
プロジェクトマネージャー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ステークホルダーとの調整 ・ 予算の管理 ・ リソースと期限の管理 ・ マイルストーンの設定と達成 ・ 初期プロジェクトと企業内キーステークホルダーの間に立ち調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・ エグゼクティブコミュニケーションスキル（複数利害の調整と合意形成能力） ・ プロジェクト立案能力 ・ リソース管理能力 ・ XML の価値への理解

調査フェーズ

組織が DITA 執筆環境への移行調査を行う際には、様々な角度からの調査を実施するため、新たな役割や担当責任を必要とします。調査フェーズでは、後続するフェーズに向けて、正確な見積もり、計画、ビジネスケース構築を実施するための情報を集めます。

コンテンツ管理 スペシャリスト	コンテンツ管理のための様々な選択肢を調査します。自組織のためのソリューションを構築するために、コンポーネントコンテンツ管理システム (CCMS) のベンダーと一緒に作業を進めます。
変換スペシャリスト	既存コンテンツから DITA への移行は、変換プロセスに関する深い理解を必要とします。コンテンツ変換のための選択肢を調査します。変換の選択肢としては、プロセスを自動化するツールを利用した自社内での手動によるコンテンツ変換から、変換を行うベンダーと契約するに至るまで、広い範囲があります。
DITA インフォメーションアーキテクト/コンテンツストラテジスト	既存のコンテンツライフサイクルを理解しています。組織のコンテンツをよく知っており、コンテンツの再利用やメタデータの利益性にポテンシャルを見いだすことのできる将来を見越すことのできる人材です。
執筆リーダー	DITA 執筆環境に関連するツールやワークフローに関するフィードバックを提供します。また、既存コンテンツ変換へのインプットも提供します。
プロジェクトマネージャー	DITA 執筆環境への移行は課題をとまなう変化の可能性があるため、移行を調査するチームに方向性や説明責任を提供します。スケジュールや作業のアサイン状況を追跡し、調査チームの予算を監督します。
テクニカルコミュニケーションマネージャー	DITA 執筆環境を調査するリソースを特定するために、多くの主要プレイヤーと作業します。DITA の調査に個々の時間を使えるよう、各人のスケジュールを管理します。予算への承認を獲得し、DITA 執筆環境を実装するために必要なツール、機器、リソースに関するコスト分析を開始します。
テクノロジスト/パブリッシングエキスパート	DITA ソースコンテンツをサポートする様々なパブリッシングツールを理解しており、DITA を理解しています。テンプレートの開発と保守をおこないます。
支援者	それぞれの組織には、DITA 執筆環境への移行をサポートするマネジメント側の支援者や擁護者 (チャンピオン) が必要です。この将来を見越すことができる人材は、上流での DITA 執筆環境への移行メリットやコスト概要を理解しています。さらには、トレーニングやマーケティングを網羅した、限定されることのないエンタープライズ規模での導入の機会創出を理解することができます。
翻訳コーディネーター (オプション)	組織がコンテンツの翻訳を実施している (もしくは将来的に実施したい) 場合は、翻訳コーディネーターを調査フェーズに含めることが、完全かつ効果的な長期の戦略 (特にツール選択、しかしそれに限定することなく) を開発するために重要な要素となります。
ユーザーエクスペリエンス (UX) デザイナー	調査フェーズの期間には、要件を決定し、ユーザーにコンテンツを配信するために可能となるソリューションを特定するための予備調査を行います。

売り込みフェーズ

組織が DITA 執筆環境への移行を決定したあと、担当者数人は、そのアイデアを上位マネージメント層および主要なステークホルダー（IT 部門など）へ売り込まなければなりません。このフェーズの担当者は、調査フェーズに関わった人からの情報に依存しています。

DITA インフォメーションアーキテクト／コンテンツストラテジスト	組織のコンテンツをとともよく知っており、コンテンツの再利用やメタデータの利益性にポテンシャルを見いだすことのできるストラテジストです。DITA 執筆環境の利点を理解しており、XML や既存のコンテンツ開発プロセスやその非効率性を理解する必要性のないエグゼクティブや他の主要ステークホルダーと明瞭に意思疎通を図ることができます。
支援者	上位のマネージメント層と調査チームとのつなぎ役です。必要なツール、作業環境へもたらされる変更点、DITA の実装を成功させるために必要な労力について理解しています。DITA 執筆環境への移行に関する利点や移行コストについて理解しています。
テクニカルコミュニケーションマネージャー	上位マネージメント層への提案書を準備するために DITA インフォメーションアーキテクト／コンテンツストラテジストおよび支援者と密接に作業します。DITA 執筆環境への移行に関わる、人員、ツール、トレーニングを含む支出を理解し、管理します。

プロトタイプフェーズ

組織が DITA 執筆環境への移行の承認と資金を受け取った後、新しい環境のツール、手順、プロセスを開発するために多くの担当人員と一緒に作業しなければなりません。プロトタイプフェーズの成功は、調査フェーズに関わった担当人員からの情報に依存しています。

コンテンツ管理スペシャリスト DITA のアーキテクチャを理解しています。CCMS を使うのであれば、CCMS の要件を定義し、ベンダー選定と CCMS のプロトタイププロセスを主導します。

変換スペシャリスト 重要なメタデータを保持もしくは追加し、またコンテンツ戦略で特定された DITA モデルに従うため DITA インフォメーションアーキテクト/コンテンツストラテジスト、コンテンツ管理スペシャリスト、テクノロジスト/パブリッシングエキスパートと協業して、プロトタイププロジェクトのための初期変換を行います。初期変換されたコンテンツは複数の目的に使われます。コンテンツ戦略のテストや見直し、ツールの選定やカスタマイズのプロセス期間の実サンプルの提供、ドキュメント配信のためのスタイルシート開発を開始するためテクノロジスト/パブリッシングエキスパートに対しての作業サンプルの提供、などです。

DITA インフォメーションアーキテクト/コンテンツストラテジスト 既存コンテンツの変更、既存ツールの改善、プロセスの自動化、に関する機会を探します。シングルソースのためのベストプラクティスやメタデータ活用のベストプラクティスを決定します。特殊化開発の必要性を含め、DITA アーキテクチャーに関する深い知識を持っています。組織が使うツールの開発や保守のために、テクノロジスト/パブリッシングエキスパートやコンテンツ管理スペシャリストと密接に作業します。

テクニカルコミュニケーションマネージャー 健全なプロトタイププロジェクトの開発はリソースを必要とします。これらのリソースは、部門費用に影響します。成功するプロトタイププロジェクトは、専任の担当者、ツール、トレーニングを必要とします。テクニカルコミュニケーションマネージャーは、パイロットプロジェクトが予算からかけ離れないことを確実にするため、プロジェクトに関連する費用を管理、コントロールします。上級マネジメント層との開かれたコミュニケーションを維持します。プロトタイププロジェクトの定期進捗状況や予算状況を提供する責任を持っています。

執筆リーダー 組織が DITA 執筆環境への移行を開始すると同時に、執筆リーダーはプロトタイプコンテンツを用いて作業し、執筆ガイドラインや制作プロセスの構築を開始します。プロトタイプフェーズでは、戦略、ツール、プロセスの特定を実施し、ギャップや問題点の修正のため、彼らは他の全ての役割担当者と密接に作業します。

プロジェクトマネージャー プロトタイプを推進するにあたって、全てのコンポーネントがスケジュール通りに開発されることや全てのリスクが適切に管理されることを確実にします。プロトタイプの不可欠な全ての面が指示通り、および時間通りに完了することを確実にします。プロジェクトマネージャーは、プロトタイプフェーズ内の全てのステークホルダー間のコミュニケーションラインが開かれていることに加え、社内他の他部署とのコミュニケーションも同様であることを、保証します。

テクノロジスト/パブリッシングエキスパート DITA インフォメーションアーキテクト/コンテンツストラテジストやコンテンツ管理スペシャリストと密接に作業し、組織に XML ファイルのパブリッシング手段として選択された 1つ、もしくは 2つの出力タイプを開発、保守します。パブリッシングプロセスを推進し、パブリッシングツール固有の要件を特定します。

支援者 上位マネジメント層とプロトタイプチームのつなぎ役です。プロトタイプフェーズ期間、支援者の役割は、プロトタイプが完了する前にキャンセルにならないように維持に努め、企業が持つであろう様々な懸念を特定することです。支援者は、企業における DITA ソリューションの可能性を幅広く紹介することも請け負います。

- テクニカルエディター** インプットを提供し、ワークフロー編集の作成支援をし、DITA マークアップのガイドライン、文法やライティングのスタイルガイドライン、トピックベースのライティングガイドラインを含むスタイルガイドを開発します。
- トレーナー** プロトタイプフェーズに責任を持つすべての人と密接に作業します。トレーナーは、プロトタイプフェーズ期間中に開発された手順やプロセスをベースに教材やカリキュラムを開発します。DITA 執筆環境で使われるツールやプロセスを知らなければなりません。
- 翻訳コーディネーター** 翻訳が要件である場合は、ピボット（原文）言語と全ての翻訳言語の管理に関する作業戦略の開発を開始します。
- ユーザーエクスペリエンス (UX) デザイナー** プロトタイプフェーズを利用して、コンテンツに対するユーザーエクスペリエンス (UX) を構築、ユースケースやシナリオを作成、ワイアフレームを開発、機能要件をリストアップします。すべてのステークホルダーからのフィードバックを収集しますが、内部および外部のエンドユーザーにフォーカスします。

導入フェーズ

プロトタイプフェーズに成功したら、法人内の一つまたは複数のチームに対して、DITA ソリューションをロールアウトまたは段階的にロールアウトします（導入フェーズ）。導入フェーズ中、プロトタイプフェーズに参加した全人員は、チーム全体のメンターの役割を果たします。導入フェーズには、すべての役割が含まれていません。

コンテンツ管理スペシャリスト	コンテンツ管理および CCMS ツールの全ての側面を管理し、カスタマイズします。
変換スペシャリスト	必要に応じて、既存資産を継続的に変換します。
DITA インフォメーションアーキテクト／コンテンツストラテジスト	シングルソースのベストプラクティスとメタデータ活用のベストプラクティスを継続的に展開します。
テクニカルコミュニケーションマネージャー	リソースおよび経費を継続的に監視します。プロトタイプフェーズの成功に倣い、新たに予算、スケジュールを設定し、追加のリソースを管理します。テクニカルコミュニケーションマネージャーは人員を管理する責任を負って、全人員がツールにアクセスし、トレーニングを受け、DITA 執筆環境で作業する上で必要な設備を整えられるようにする必要があります。導入フェーズ中、目標、スケジュール、予算要件を達成する責任を負います。上級管理者向けに、進捗レポートを継続的に定期作成します。
執筆リーダー	執筆者が DITA の導入へ移行できるようサポートします。また、継続的に新しいコンテンツを執筆し、マップを管理します。
執筆者	ツールおよびプロセスを同時に学びながら、トレーニングを受け、DITA で執筆を開始します。
執筆者としての SME（内容領域専門家）	XML エディタ(トレーニングの場合)または XML タグを非表示にする簡易版インターフェースのいずれかを使い、分かる範囲でコンテンツを執筆することがあります。通常、SME が書いた内容を、文面、スタイル、XML タグの使用をチェックしながら執筆者がレビューします。
レビューアーとしての SME（内容領域専門家）	ドラフトまたは最終的なコンテンツをレビューし、修正や改善に関してアドバイスします。
プロジェクトマネージャー	すべてのプロジェクトを順調に進めます。
テクノロジスト/パブリッシングエキスパート	DITA インフォメーションアーキテクト／コンテンツストラテジストおよびコンテンツ管理スペシャリストと密に連携して、残りの出力タイプについて組織で採用している XML ファイルのパブリッシング方法を展開し、管理します。
支援者	上級マネジメント層と執筆チームの間をつなぎ役として継続的に調整します。
テクニカルエディター	すべての執筆者が DITA 要素と属性値を一貫して使用し、文体および構造が読みやすさや明確さの要件を満たし、再利用の可能性をすべて採用できるようにします。
トレーナー	プロトタイプフェーズにおいて決定されたツール、プロセス、戦略に関して、具体的なタスク指向トレーニングを、すべての執筆者が受けているようにします。トレーナーはまた、継続的にトレーニングを実施し、すべての執筆者をサポートします。



- 翻訳コーディネーター** 一つまたは複数言語への翻訳やローカリゼーションの調整を行い、プロセスをすべてを実装します。高品質の翻訳を保証し、複数言語のマップおよびトピックを効率的に管理します。
- ユーザーエクスペリエンス (UX) デザイナー** メトリックス、検索用語、見つけやすさ、旧コンテンツ、ユーザーフィードバック、ユーザーエクスペリエンスを継続的に監視します。DITA インフォメーションアーキテクト／コンテンツストラテジストおよびテクノロジスト/パブリッシングエキスパートと連携して、ユーザーエクスペリエンスの改善について優先付けを行い、エンドユーザーから得られたコンテンツや製品の改善に関する情報について説明します。

継続的改善フェーズ

DITA 導入プロセスが構築されたら、組織で継続的にコンテンツを管理し、実装を拡張し、ツール、ソリューション、プロセスを微調整する必要があります。

コンテンツ管理スペシャリスト	コンテンツ管理および CCMS ツールの全ての側面を管理し、カスタマイズします。現在のリリースや新機能に関する CCMS ツールおよび手順を更新します。
変換スペシャリスト	他部署からのコンテンツなど、必要とされる既存コンテンツを継続的に変換します。
DITA インフォメーションアーキテクト／コンテンツストラテジスト	業界動向や新しい領域の考え方についていけるようにします。新たな要件を決め、戦略を修正し、すべてのプロセスを整備します。
テクニカルコミュニケーションマネージャー	リソースおよび経費を継続的に監視します。DITA 執筆環境が進化するのに伴い、必要なツールのアップデート、設備の更新、コンサルティングサービスを見込んだ、部署の財源および予算を継続的に管理し、展開します。上級管理者向けに、進捗レポートを継続的に定期作成します。
執筆リーダー	継続的に新しいコンテンツを執筆し、既存のコンテンツを更新します。
執筆者	継続的に新しいコンテンツを執筆し、既存のコンテンツを更新します。
執筆者としての SME (内容領域専門家)	XML エディター(トレーニングの場合) または XML タグを隠す簡易インターフェースのいずれかを使い、分かる範囲でコンテンツを執筆することがあります。通常、SME が書いた内容を、文面、スタイル、XML タグの使用をチェックしながら執筆者がレビューします。
レビューアーとしての SME (内容領域専門家)	ドラフトまたは最終的なコンテンツをレビューし、修正や改善に関してアドバイスします。
テクノロジスト/パブリッシングエキスパート	業界動向や新しい領域の考え方についていけるようにします。全ての出力タイプについて組織で採用している XML ファイルのパブリッシング方法を展開し、管理します。現在のリリースや新機能に関するパブリッシングツールおよび手順を更新します。
テクニカルエディター	すべての執筆者が要素と属性値を一貫して使用し、文面および構造が読みやすさと明確さの要件を満たし、再利用の可能性をすべて採用できるようにします。
トレーナー	トレーニング資料を展開および更新し、すべての執筆者がツール変更、新機能、プロセス変更に関するトレーニングを受けているようにします。
翻訳コーディネーター	必要な言語すべてについて、継続中の翻訳を管理します。
ユーザーエクスペリエンス (UX) デザイナー	検索用語、見つけやすさ、メトリックスなどの、ユーザーエクスペリエンスを監視します。ユーザーの要望に応じてコンテンツのデザインやエクスペリエンスの変更を薦め、ユーザーに必要なユーザーエクスペリエンスを更新します。
支援者	企業をまたいで DITA を利用するビジネス上の利点、およびテクニカルパブリケーションを超えた別の領域にソリューションを拡大する方法について継続的に説明します。